

東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会 50 周年記念イベント
南アルプス北部縦走記録

日 時：2010 年 7 月 31 日～8 月 1 日

場 所：広河原～北岳～間ノ岳～塩見岳～三伏峠～鳥倉ゲート

メンバー：Leader 河合良夫(s56)、河合英子(s56)、木村堅治(s50)

塩見岳合流メンバー 小沢昭仁(s50)、小沢裕子（日本女子大 WV 部 OG）

OB 会 50 周年記念イベントとして、2010 年は昨年の北アルプス縦走に続き、南アルプスを縦走する予定である。今回は南アルプス北部、広河原から北岳、塩見岳を経て三伏峠までを踏破した。山中テント一泊の強行軍であったが、天候にも恵まれ、完遂した。

<7 月 31 日>

広河原(6:50)－大樺沢二股(8:45)－北岳(11:40)－間ノ岳(14:00)－熊ノ平 C1(15:40)

前夜 23 時に浦和を河合車で発ち、芦安に 2:00 着。2 時間程度仮眠をとり、河合車を芦安の駐車場にデポし、4:50 発の広河原行きのバスにのる。広河原に入る人はたいへん多く、バスは 6 台も出発した。

広河原は 6:50 に出発、コースは熊ノ平小屋に行くのに最短である大樺沢の左俣コースを選択した。天候は晴れており、二股までの林の中は夏の太陽の木洩れ日が美しかった。

二股を 8:45 に過ぎると、雪溪が現れだす。雪溪上を歩いている人も多かったが、厚みが薄いところも多いので、なるべく地面を歩くようにした。また、夏の日差しは強く、睡眠不足も手伝い、休憩を一本とると、めまいを感じた。後で聞くと、他の二人も似たようなものだったらしい。睡眠不足での山行は 50 歳を過ぎると身に伝える。

10:35 に八本歯のコルに到着、この頃からガスりだす。ここで若干不調だった河合の奥さんと別れて、河合と私で北岳をピストンする。北岳のピークには 11:40 に到着したが、ガスっていて何も見えない。記念写真だけ撮って、すぐに折り返す。

北岳小屋にて、河合の奥さんと再び合流するとともに、本年 1 月に北岳にて遭難死した平成 4 年卒理科大ワンダーフォーゲル部 OB の長塚毅君に線香を焚いて、黙とうした。長塚君の顔はほとんど覚えていないが、まだ 41 歳という若さでの遭難であり、残念であった。今年は鈴木等さんも亡くなっており、ワンゲルにおける山岳事故の多さに暗澹たる気持ちになる。

北岳の下りでは雷鳥の親子を見た。間ノ岳を 14:00 に過ぎたが、そこでも登山道上に雷鳥がいた。我々が登山道を進むと、雷鳥も登山道上を逃げるので、しばらくそんな状況が続く。雷鳥も登山道が歩きやすいようだ。間ノ岳を過ぎると、農鳥岳方面に行く登山者と別れるので、登山者がめっきり減り、本来の南アルプスの縦走らしくなってくる。

15:40 に熊ノ平小屋に到着し、缶ビールで乾杯する。うまかった。テント場は水場も近く、

平坦で、良い立地だ。テントも軽量化を図るために、2人用であったが、雨も降らなかった
ので、快適であった。ウィスキー500ccでささやかに、宴会を行った。

<8月1日>

C1(4:50)～塩見岳(8:55)～三伏峠(12:25)～鳥倉登山口(14:35)～鳥倉ゲート(15:15)

熊ノ平を4:50に出発、天候は快晴に近い。塩見岳方面を見ると、かなり遠く見えて、少しめげそうになる。しかし、3人とも睡眠も十分とれており、気温も低いので、快調である。縦走路もアップダウンが少なく平坦なので、足取りは軽く、快適で気持ちいい。安倍荒倉岳、北荒川岳を一気に通過していく。

塩見岳の急坂を登り、北俣岳分岐を経て、いよいよ塩見岳は間近になる。小沢夫妻が三伏峠から上がって、出迎えてくれる予定になっている。それらしい人影が見えるので、試しにコールをすると、コールが返ってきた。山で仲間と会えるのは嬉しいものである。

塩見岳のピーク直下では、かなりの数の猿の群れがいて、少しビックリした。

塩見岳ピークに8:55に到着、小沢夫妻と合流し、記念写真をとる。小沢夫妻は1時間前に到着していたので、先に下山し、我々は大休止をとる。少し雲が多くなってきたが、間ノ岳や農鳥岳などのパノラマは満喫できた。

塩見小屋は10:00に通過、本谷山は11:30に通過し、三伏峠12:15にて小沢夫妻と再度、合流する。缶ビールで祝杯を上げた。

鳥倉登山口までは5人でゆっくりと下山した。ここまでが少し早足だったので、のんびりできたことと、やはり山行は人数が多い方が楽しい。

鳥倉登山口を経て、鳥倉のゲート付近の駐車場まで歩き、そこで小沢車に乗せてもらい、芦安まで送ってもらう。しかし、鳥倉から芦安まで、高速を使っても、1時間以上移動にかかった。南アルプスの大きさを感じるとともに、今回の一泊二日の山行をなしえたのは、小沢会員が車で反対側に入って、出迎えてくれたからである。感謝、感謝である。

<総括>

コースタイムは初日10時間、2日目12時間40分もあり、かなり強行軍であった。そのために、個人のマットなども持たず、軽量化を図り、計画を達成することができた。それなりに南アルプスを楽しむことはできたが、少しせわしないとも感じた。今度は休暇をゆっくりとり、仲間とのんびり縦走したいとも思った。

(2010.08.08 記 木村)